

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのつながりを大切にします」を理念に掲げ、施設行事や地域行事での交流、防災訓練などで相互協力が得られるように努めています。	法人全体としての理念に基づいた事業所独自の理念がつけられています。玄関や事務所内など目に付きやすい場所に掲示するとともに、法人内研修で理念の確認をしています。	職員間で理念の共有ができるよう、ミーティング時などに定期的に確認する機会を設けられることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、回覧板等で施設の様子をお知らせしたり、冠婚葬祭においても近所付き合いをさせて頂いています。	自治会に加盟し、地域の夏祭り・さいの神などの行事への参加、老人会への参加など地域との交流が深められています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「つばき園」の存在を理解していただくとともに「認知症の人」を理解していただく必要性を強く感じています。しかしながら、地域の方々への働きかけが出来ていない現状です。専門施設として、専門職として取り組まねばならない課題と考えています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果については会議において報告しています。特に地域との関りや連携などについて地域の代表者から意見を頂き取り組みの参考にさせて頂きました。	2ヶ月に1回コンスタントに開催され、事業所の活動内容を報告し、区長・民生委員さんなど、さまざまな立場からの意見を伺い、改善の参考にさせて頂いています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険係の担当者と施設の取り組みの相談や対人援助の問題解決に向けての相談をさせて頂いています。	地域包括支援センター、社会福祉協議会、介護保険係担当者などに介護保険制度上の問題等、困ったことがあれば電話で相談し、意見を頂いています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、マニュアルの作成に取り組んでいます。日々の介護の中でミーティング等、職員間で話し合い確認しあっています。	職員会議などで話し合いを行うことで、職員への身体拘束に関する理解はされています。また、やむを得ずベッド柵を使用する場合は、ご家族の同意と経過の報告が行われています。	職員への外部研修の内容の伝達やつばき園としての具体的な身体拘束に関する検討の機会を設けることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、マニュアルの作成に取り組んでいます。日々の介護の中でミーティング等、職員間で確認しあっています。特に、目に見えない部分(精神面)、言葉による虐待となっていないかを注意喚起しています。	外部研修への参加やミーティング時の事例検討などを通し、虐待防止に関する知識と意識を高める取組みが行われています。	身体拘束同様に、職員への外部研修の内容の伝達やつばき園としての具体的な身体拘束に関する検討の機会を設けることを期待します。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに2名の方が成年後見制度を活用されている。これら制度を学ぶ研修等への参加は特定の職員に限られており、職員全員が学ぶ機会がない現状です。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書で説明し、改定等の際は文書で明示するとともに説明を行っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族全員の参加をお願いしています。毎月個別の利用状況のお便りを送付し、ご家族の意見や要望を伺うようにしています。面会時や電話で意見交換が出来るように心がけています。	運営推進会議にはご利用者家族全員から参加していただくようにしており、日々の面会時などに頂いた意見などにも対応できるように取り組んでいます。	ご家族アンケートの実施や定期的にご家族が集まる機会を設けるなど、よりご家族から意見を吸い上げる機会を設けることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度当初には自らの意見、要望を文書で提出してもらっています。その後、理事長、管理者との面談があります。また、毎日のミーティングや職員会議で意見交換をしています。	毎日行われているミーティング、毎月の職員会議において、職員から出された提案を全職員で検討されており、管理者を通じて理事長への報告を行っています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の人事考課による評価、面談による意見、要望を確認し話し合いを行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年次研修計画を作成し、職員のレベルに応じ、法人内の新任研修や外部の専門研修に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に魚沼地域のグループホームの会議を開催し、意見交換、情報の共有を図っています。職員の相互訪問も行っていますが、受け入れのみ、訪問の機会がまだありません。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に際しては、自宅への事前訪問や担当のケアマネージャー、サービス提供施設での利用状況の説明を受けるなど情報収集に努めています。ご本人、家族との面談の機会を多く持つように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当のケアマネージャーからの情報収集、直接家族からの聞き取り調査に十分時間を掛けるように努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心と安全が提供できるように生活環境を整える事や、家族、医療との連携を図りながら環境の変化によるストレスの軽減に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の身の回りのこと、自分のことは出来るだけ自分でして頂き、他の利用者、職員と協力し合えるように支援しています。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での利用状況をお知らせするとともに行事への参加や面会をお願いをしたり、利用者との関わる時間がもてるように支援しています。	施設長が毎月ご家族へ手紙を送付しているほか、年4回の広報にて事業所の状況も伝えていきます。また、ご家族参加の行事や受診をご家族にお願いすることでご利用者や事業所との接点を作り、ご家族とコミュニケーションをとりながらご本人を支える取り組みが行われています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日用品を買っていた商店街へ出かけたり、馴染みの美容院や床屋さんへ出掛けることが出来るように支援しています。	日々の支援の中でご利用者から得た情報をもとに、買い物や美容院など馴染みの関係が継続できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相互に助け合えるような関係作りに職員が仲介したり、心地よくいられる為に座席の変更をしたり、創意工夫をしながら取り組んでいます。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院、療養が必要となり施設がえが必要となったときは、家族、関係機関と協働し、最後まで責任を持って対応しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活様式や環境を考慮し、本人とのコミュニケーションに努めています。	利用開始時のアセスメントや面会、日常の会話や行動からのご利用者の意向の把握に努めています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問、家族、ケアマネージャーからの情報収集、サービス利用施設の訪問などで把握に努めています。	事前調査や日常の会話、ご家族との話し合いの中からこれまでの暮らしの把握に努められていますが、ご利用者の情報を記載するシートに情報として不足している箇所がありました。	今後、センター方式やライフサポートワークの検討を行い、改善に取り組まれることを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、業務日誌にその日の出来事、普段と違う様子など記録し、毎日のミーティングで情報の共有を図っています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者が一堂に会して話し合いが行われてはいません。殆どの場合、計画作成者を中心として職員間の話し合いによって介護計画が作成されています。	前回の調査で課題となった定期的な計画の見直しについても6ヶ月に1回行っているほか、3ヶ月に1回は職員がモニタリングを行っています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいてケース記録に記録を摂るようにしていますが、モニタリングに活用するには不十分な記録となっている為、改善の必要性を感じています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会資源の活用については、他の施設(介護保険以外の施設)との情報交換などで、サービスの充実に努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入していることによって、共同作業や行事への参加が可能となり、交流を楽しんで頂いています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診のほかにも希望に添った受診を行っています。	ご本人・ご家族の希望する医療機関での受診が行われ、1週間のバイタルや状況を記録した用紙を活用し、ご家族を介した医療機関との情報交換や同行受診により連携が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康状態の観察から、いつもと違う状態や、症状があるときは、常に相談し、支持を受けながら受診や家族への報告、相談をしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に向けての話し合いを病院関係者、家族と行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の現状(施設で出来ること出来ないこと)の説明は契約時、また入院や状態の変化が著しい時など随時家族へ説明しています。	退所判定基準を作成し、契約時に事業所の終末期の支援の方針をご家族に伝えられています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、資料の整備に取り組んでいます。応急手当の実践訓練はしていませんが、訓練することによりその力量を身につけることは必要と考えています。	昨年度は、課題となった救急救命講習、AEDの使用講習も実施されておりました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施しています。消防署、地元消防団との合同避難訓練を実施しています。地域の一般住民との協力体制を築くにはいたっていません。	消防署・地域の消防団との合同の避難訓練や事業所独自の毎月の避難誘導訓練が行われています。また、前回課題となった非常用職員の準備もされておりました。	避難訓練には地域の方へも参加を要請し、協力体制を構築されることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては同意書に基づいた対応をしています。職員の守秘義務については、文書にて確認するとともに日常的に注意を喚起しています。利用者への言葉遣いへの配慮も誠実に丁寧に対応しています。	契約時の同意書に基づいた個人情報の取扱いが行われているとともに、言葉遣いなども日常のカンファレンスにおいて確認するなど、個人の尊厳に配慮した対応がとられています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の企画に参加していただいたり、献立を立てる際に希望を伺ったり、機会を捕らえて気持ちを表現できるような言葉かけを心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が一斉に何かをするような、また時間の規制を掛けるようなことのないように対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの美容院へ出かけたり、外出の際の着替えを手伝いながら一緒に洋服選びをお手伝いしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者同士役割分担し、出来ることをして頂いています。	ご利用者の状態に応じて共に作り、準備や後片付けにも協力してもらっています。また、誕生日食・行事食は希望をとって外食支援をするなど対応し、ご利用者に楽しみなものになるようにしています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士より献立の内容や提供状況について指導を受けながら、安全に美味しく召し上がっていただけるよう努めています。特に注意が必要な利用者は介護計画に載せて記録をとり適切な対応が出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人任せの利用者もいますが、特に就寝前の口腔ケアは職員が行っています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合わせた支援を心がけています。夜間帯と日中の対応を変えたり、排泄チェック表を活用してトイレで排泄できるように支援しています。	個々のご利用者の状況により、必要な場合はチェック表を作成し、排泄パターンを把握した上で、タイミングよく声かけなどのトイレ誘導が行われています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、日常生活での活動量を多くするような関りを心がけています。排便の状況を記録し、適切な対応が出来るようにしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	デイサービスの大浴槽も使って、個人の好みに対応できるように努めています。	デイサービスのお風呂も含め、種類や時間の希望に添えるよう支援がされています。また、入浴を嫌がるご利用者の対応方法も職員間で共有され、連携プレーがされています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団、ベッド、ソファなどで自由に過ごして頂いています。個室の空調も好みに応じていますが、温度計・湿度計を設置し一応の管理はさせて頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書と照らし合わせて管理しています。また投薬時、医師からの説明も受けます。薬の変更があった場合は、記録に残し、経過観察の徹底を図ります。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、調理など日常の家事労働を利用者同士協力しながらやっていただくよう支援しています。1Fデイサービスでゲームやカラオケなども楽しんで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜やもみじのきれいなところへ出かけたり、外気浴をしながらおやつを食べたり、よく出かけていた商店街へ出かけたり出来るように支援しています。職員体制が損れずに急な要望に応えられない時があります。	天気の良い日は散歩に出かけたり、季節に応じた花見や紅葉、花火見学に行くなど外出支援に取り組んでいます。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	忘れてしまったり、物盗られ妄想の出現があり、自ら管理できない場合は、施設管理とさせていただいています。家族との話し合いをさせていただいています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添っています。事前に家族や相手方の了解を得ることも有ります。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺風景にならない様に利用者の作品を展示したり季節感を味わっていただけるようなしつらえを心がけています。	白と木目を基調とした清潔間と開放感のある空間にほどよくご利用者の作品や装飾がされており、月ごとに掲示物を変えて季節感を出すようにしています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の位置など配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の今までの生活が出来るだけ継続できるように家族の協力を得ながら対応しています。	明るい居室にご利用者それぞれの使い慣れた家具や装飾が行われ、居心地よく過ごせる空間作りへの配慮が行われています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙をしたり、目印をつけたりして、混乱のないように工夫しています。		